

# 記念館新聞

福崎町立  
柳田國男・松岡家記念館  
〒679-2204  
神崎郡福崎町西田原  
1038-12  
電話：0790-22-1000

## 松岡俊次と井上通泰

### 模写に込められた想い



松岡俊次肖像(個人蔵)  
俊次の辞世の歌が記されています。



松岡三子の墓

俊次の墓は、福崎町の悟真院墓地にあります。この墓には4男の芳江(2歳没)、5男の友治(4歳没)がともに眠っています。

松岡俊次は、松岡家の2男として誕生し、明治16年(1883)に19歳で亡くなりました。右の肖像画は、3男の井上通泰が模写したものです。

俊次の墓は福崎にあるために、東京に住む通泰は頻りに墓参りに行くことができませんでした。そこで、遺影の代わりに拝むために模写したということが裏書に記されています。

名作著書紹介

## 故郷七十年を讀む



國男は『故郷七十年』で、兄の俊次について次のように記しています。

俊次は姫路野里の呉服店に働きに出て、家計を助けていました。しかし、店で失敗し、大阪でやり

直しをしようとした矢先に、腸チフスで亡くなつてしまいました。この訃報を飛脚がもたらしたとき「一家の悲劇がいまも私の記憶に残っている」と國男は述べています。また、大阪の旅寓(宿泊所)で次の辞世の歌を遺しています。

秋しかの身にはあらねど小夜ふけてかたぶく月に音のみぞなく



柳田國男・松岡家記念館

☆☆入館案内☆☆

- ☆開館時間 9時～16時30分 (入館は16時まで)
- ☆休館日 月曜日、祝日の翌日 12月28日～1月4日
- ☆入館料 無料

## 辻川界隈の町並みジオラマワークショップ

### 開催報告

8月8日(土)から12日(水)までの5日間、辻川区公民館で、辻川界隈の町並みを模型にしたジオラマ制作ワークショップを実施しました。ワークショップでは、模型を眺めながら、みなさんの記憶や想いをお聞きしました。それらをプラスチック製の旗に書き込み、模型に立てました。



ワークショップのようす

また、この辻川界隈は、柳田國男が生まれ、幼少期を過ごした場所であることから、『故郷七十年』に記された思い出も、旗に立てられています。

## 講演会 「松岡鼎～柳田國男を導いた兄～」

記念展開催にあわせ講演会を開催します。講演を通じて、展示の理解を深めてください。

日時:10月3日(土) 13:30～15:00  
場所:歴史民俗資料館 2階  
講師:石井正己氏 (柳田國男・松岡家記念館顧問/東京学芸大学教授)

## 記念展 松岡鼎展 ～柳田國男を導いた兄～

11月23日(月・祝)まで開催中!

展示内容については、中面をご覧ください。



柳田國男検定の受験のようす

## 館日記

第36回山桃忌を8月1日(土)と2日(日)にエルデホールで行いました。今年は柳田國男生誕140年にあたることから、柳田國男の『故郷七十年』をテーマに開催しました。おかげさまで、多くのみなさんにお越しいただきました。また、2日(日)には第2回柳田國男検定初級編と中級編を実施しました。猛暑の中、熱心に検定に取り組んでいただきました。来年は、初級編と中級編に加えて、上級編を実施予定です。ぜひ、挑戦してください。



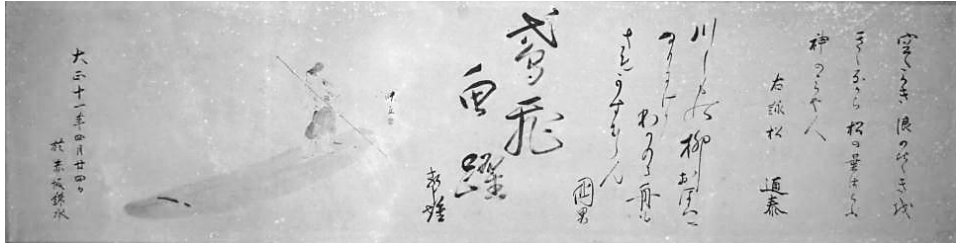
かなえ  
**松岡 鼎展 ～柳田國男を導いた兄～**

鼎のもとに遺された松岡五兄弟の交流を示す資料と、晩年のようすを紹介します。(資料はいずれも個人蔵)

## 松岡五兄弟の交流

鼎、通泰、國男、静雄、輝夫（映丘）の五兄弟は、生涯にわたり交流を続けました。

下の寄せ書きは、第2回国際連盟常設委任統治委員会に出席するために渡欧する國男の送別会で、書かれたものです。通泰と國男は短歌、静雄は四字熟語、輝夫は舟と船頭の絵をそれぞれ寄せ書きしています。この寄せ書きは、鼎に贈られました。



松岡兄弟寄せ書き（右から井上通泰、柳田國男、松岡静雄、松岡映丘）  
大正 11 年 4 月 24 日

## 鼎の菊づくり

鼎は自宅の庭先で、家族の協力を得ながら、趣味の菊づくりに熱心に取り組んでいました。



邸宅の菊花壇の前で座る鼎  
大正 14 年秋



邸宅の菊花壇  
明治 42 年 11 月 7 日

通泰が兄の菊づくりを思い詠んだ歌  
きくづくりする入みれば世のさがき  
これに忘れし兄をしぞ思う



## 鼎の晩年

鼎は、昭和 9 年（1934）1 月 28 日に 75 歳で生涯を閉じました。

医者となるために故郷辻川を旅立った鼎は、還暦を迎えた大正 9 年（1920）に帰郷しています。このときに松岡家の氏神であり、兄弟の遊び場でもあった鈴ノ森神社に、大玉垣を奉納しています。



鈴ノ森神社の大玉垣  
大正 9 年頃

## 写真・絵葉書・書籍

鼎のもとには、鼎や家族・親族の写真とともに、國男をはじめとする兄弟の写真が遺されています。この中には、兄弟たちの幼少期や学生時代にかけての姿や五兄弟がそろったものがあります。

また、兄弟たちが互いに近況報告やお礼を伝えた書簡や葉書、研究成果をまとめた著書も、鼎のもとで大切に保管されています。



【前列】左から輝夫、鼎、松寄重（※寄は崎の異体字）  
【後列】左から國男、静雄  
明治 32 年 11 月 25 日



『遠野物語』（明治 43 年）



松岡鼎宛柳田國男葉書  
大正 8 年 7 月 24 日付